

ひろい心のある狭い道

先週の日本事情の授業で県からの出前授業があり、和歌山県のことについて勉強しました。授業では「和歌山の良いところと良くないところは何か」をテーマに議論を行いました。生徒は6人ずつほど三つのグループに分かれて意見を出し合った後、出された意見をまとめてグループの代表者が発表しました。

「和歌山の良いところは何か」という質問については、緑が豊かである、食べ物が美味しい、観光スポットが多いなどといった意見が多く出されました。それに加え、私が好きなのは和歌山が高野山や熊野古道などの歴史に関するところがたくさんあるということです。

また、「和歌山の良くないところは何か」の質問については、道が狭い、夜は暗い、バス代が高すぎるといった意見が発表する意見として選ばれていました。ゴミ箱がないということも、みんなの不満として挙げられていました。

そういった問題の解決策として、「もっと道路に街灯を増やしたらどうか」、「道幅を拡げた方がよい」、「バス代を下げたらどうか」というような提案がみんなから出されました。

意見交換の時、とくに熱心に話し合ったのは「通学路が狭すぎて危ない」という問題についてでした。その通学路は、車道と歩行者や自転車が通る歩道の上にコンクリートの仕切りがあって、自転車は一列で進むことしかできません。そのコンクリートの仕切りのせいで狭い歩道がさらに狭く感じられます。だから、もし自転車と歩行者がその道路を通る場合には、同時に通ることができないので、どちらか一人が止まって、道を譲らなければなりません。本当に不便で面倒な道なのです。

しかし、私はその通行のしにくい道がとくに好きです。どうしてかというと、その道で和歌山の人の優しさをはっきり感じるができるからです。学校へ行く道ですから、自転車に乗った学生がよく通ります。歩行者は高齢者が多いようです。

ある日、私がちょうどその道を通っている時、向こう側からおばあさんが歩いてきました。ベトナムでは、年下の者が年配の人に道を譲るのが礼儀正しい良い人間だとされています。だから、私は普段通り自転車を降りて道を譲ろうと思いました。それなのに、おばあさんの方が先に止まってくれて、道を譲ってくれました。私は大変驚きました。けれども、驚いたのはそれだけではありません。おばあさんの傍を通り過ぎる時に「ありがとうございます」と言ったら、おばあさんは「こちらこそ」と言ってくれたのです。わたしはまた驚きました。

おばあさんが年下の私に道を譲ってくれ、その上、ありがとうございますと言ってくれたことは、私にとって不思議な出来事でした。その後、また一人のおじいさんに道を譲ってもらいました。その時も私は「何かおかしいわ」と感じていました。

その日から一週間ほど経ったある日のこと、学校から帰る途中で、向こう側から自転車に乗ってやってきた男の子が目に入りました。今度は自分の方が年上なので、道を譲ろうと思って自転車を止めようとしたのですが、その子の方がそれより先に自転車から降りて、コンクリートの仕切りの上に立って道を譲ってくれました。私はびっくりしましたが、先に男の子の横を通らせてもらうことにしました。横を通る時に「ありがとう」と言ったら、少年はすぐに「いえいえ」と返事してくれました。私はその時、笑顔がわいてきて、にこにこしていました。

そんなことがあって私は「そうか、年齢とは関係ないのか」ということが分かってきました。その後、そんなことが何度もありました。道を通る人たちは、狭い道路で会うたびにお互い道を譲りあい、道を譲ってもらってお礼を言い、道を譲ってお礼を言ってもらっています。

例えば、和歌山が東京のような大都会で人々が忙しそうに生活をしていたら、狭い道路で互いに道を譲りあうようなことはできないのではないかと思います。しかし、田舎だ、田舎だ

と言われている和歌山では、いつも道路を譲り合いが行われていて、人と人との接し方が温かく、優しく感じられます。だから、私はとくにその道が好きです。

和歌山は、雑賀衆がいた頃は日本の最後の共和国でした。八代将軍吉宗が育ったお城もあります。世界で初めて全身麻酔の手術に成功した外科医華岡青洲のふるさとや空海が開いた日本仏教の聖地高野山もあります。これらすべては和歌山のことです。歴史、文化、景色、そして住んでいる人達の暮らしの中の小さな優しさ、どこから見ても、和歌山の良いところがたくさんあります。

